



平成18年3月期 第3四半期財務・業績の概況（非連結）

平成18年1月20日

会社名 株式会社 カイノス

(JASDAQ・コード番号：4556)

(URL <http://www.kainos.co.jp>)

代表者 役職名 代表取締役社長
氏名 中村利通

問い合わせ先 責任者役職名 専務取締役 管理本部本部長
氏名 徳永孔志

(Tel : 03 - 3816 - 4123)

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

- 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有 ・ (無)
- 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 有 ・ (無)
- 連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 有 ・ (無)

2. 平成18年3月期第3四半期財務・業績の概況(平成17年4月1日～平成17年12月31日)

(1) 経営成績の進捗状況

(注) 金額は百万円未満を切り捨て

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
18年3月期第3四半期	3,528	(9.2)	128	(2.6)	105	(12.5)	267	(433.2)
17年3月期第3四半期	3,230	(4.5)	125	(54.7)	94	(91.6)	50	(289.9)
(参考)17年3月期	4,328	(5.0)	164	(31.9)	141	(56.8)	73	(125.8)

	1株当たり四半期(当期)純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益
	円 銭	円 銭
18年3月期第3四半期	59 92	
17年3月期第3四半期	11 24	
(参考)17年3月期	16 40	

- (注) 1. 持分法投資損益 17年12月第3四半期 22百万円 16年12月第3四半期 - 百万円 17年3月期 - 百万円
2. 売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示しております。

〔経営成績の進捗状況に関する定性的情報等〕

当第3四半期における国内景気はこれまでの企業努力の成果により、原油価格高騰などの影響を受けたにもかかわらず業績は着実に改善しており、設備投資や国内消費においても順調な回復具合を見せております。また株式や為替相場におきましても、その好調さを反映して安定した推移をみせておりますが、今後の金利政策や税制改正の影響など、その経済情勢については不透明さを残しております。

当第3四半期における業績につきましては、臨床検査薬業界は依然厳しい状況にありますが、売上高につきましては、対前年同期比較で2億9千8百万円増の35億2千8百万円、営業利益は3百万円増の1億2千8万円、経常利益では1千1百万円増の1億5百万円となりました。

当期純利益につきましては、平成17年6月30日に当社の輸血検査用試薬事業を新設分割し、同年7月5日付けで同社株式の51%を米国イムコア社へ譲渡したことに伴う譲渡益により大幅な増加となっております。

(2) 財政状態の変動状況

(注) 金額は百万円未満を切り捨て

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
18年3月期第3四半期	5,981	2,518	42.1	564 67
17年3月期第3四半期	5,926	2,240	37.8	502 37
(参考)17年3月期	5,584	2,263	40.5	507 50

【キャッシュ・フローの状況】

(注) 金額は百万円未満を切り捨て

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
18年3月期第3四半期	125	210	174	888
17年3月期第3四半期	48	59	236	800
(参考)17年3月期	265	23	186	727

〔財政状態の変動状況に関する定性的情報等〕

当第3四半期末における総資産は、主として笠間事業所の増設工事に伴う設備投資及び関係会社株式の譲渡による現金及び預金の増加により、前期末に比べ3億9千6百万円増の5億9千8百万円となりました。

負債につきましては、長期借入金は減少いたしました。短期借入金、買掛金及び未払法人税等の増加に伴い前期末に比べ1億4千1百万円増の3億4千6百万円となりました。また、未処分利益の増加に伴い資本の部は2億5千4百万円増の2億5千1百万円となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第3四半期における営業活動により得られたキャッシュ・フローは、1億2千5百万円となりました。これは主に棚卸資産の減少及び仕入債務の増加によるものです。

投資活動により得られたキャッシュ・フローは、2億1千万円となりました。これは主に関係会社株式の売却収入によるものです。

財務活動により支出したキャッシュ・フローは主に長期借入金の返済によるものです。

[参考] 平成 1 8 年 3 月期の業績予想 (平成 1 7 年 4 月 1 日 ~ 平成 1 8 年 3 月 3 1 日)

(注) 金額は百万円未満を切り捨て

	売上高	経常利益	当期純利益	1 株当たり当期 純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
通 期	4,600	121	225	50 44

上記の予想には本資料の発表日現在における将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれております。競合状況・為替の変動などにかかわるリスクや不確定要因により実際の業績が記載の予想数値と異なる可能性があります。

[業績予想に関する定性的情報等]

当社は、平成 1 7 年 6 月 3 0 日付で、輸血検査関係事業を分割し、同年 7 月 5 日付で同社株式の 5 1 % を米国イムコア社へ譲渡いたしました。これに伴う株式譲渡益の影響により当期において 4 億円の特別利益の発生を見込んでおります。

これらの要因により、通期における業績は上記の通りに予想しております。